

国登録有形文化財澁谷家住宅保存活用計画（案）に対するパブリックコメント（意見募集）の結果について

国登録有形文化財澁谷家住宅保存活用計画（案）に対して皆様からお寄せいただきましたご意見の概要と市の考え方について取りまとめましたので公表いたします。

なお、ご意見については原則として原文のまま掲載していますが、趣旨が変わらない範囲で一部表現の調整等を行っているものもあります。

1 パブリックコメント（意見募集）の実施概要

（1） 募集期間

令和6年3月11日（月）～令和6年4月10日（水）

（2） 意見の数

10件 ※提出者数4名（郵送0件、持参7件、FAX0件、電子メール3件）

（3） お寄せいただいたご意見と市の考え方 次の表のとおり

No.	ご意見	市の考え方	修正の有無
1	<p>本文で 94 ページ、資料編で 62 ページと非常に大変なとりまとめだったのではないかと思います。</p> <p>電子的な可読性を考慮すると、資料は、少なくとも「しおり付き PDF」で提示していただけるといいのかと思います。また、難しい言葉も多いため、ハイパーリンクなどで言葉の説明の参照やリンクが可能になっているとさらに、読みやすくなると思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、計画を公表する際には、全文一括の PDF ファイルでしおり付き PDF を掲載するようにしてまいります。</p>	無
2	<p>デジタルを活用して、公開、展示することは非常に重要だと考えます。しかし、「現地に訪れることができない」又は「現地での見学が困難な方」だけを対象とするのではなく、多くの方に、長い期間にわたって、歴史的な澁谷家住宅を見てもらうためにデジタルでの展示を実施することを目的にすべきではないかと思います。</p> <p>さらに、公開、展示を目的としたものだけでなく、歴史的な価値のある建造物を後世に伝えるために、デジタルアーカイブを位置付け、デジタルアーカイブを検討するのではなく、計画して実施すべきものとするのがいいのではないかと考えます。</p> <p>現状に記載では、「～検討する。～検討する。」と検討はするかもしれませんが実施する計画に読めません。物理的な保存計画も重要ですが、物理的な保存だけはどうしても限界があります。デジタルのアーカイブを使って確実に後世に残る計画にすべきです。</p>	<p>澁谷家住宅は、実物を見ていただくことを基本としつつ、デジタル技術を活用しながら、より多くの人に見てもらえるよう、いただいたご意見の内容を参考にさせていただきます。</p> <p>デジタルデータによる記録保存の一環として、千葉商科大学の協力により、4K3D 撮影を実施しております。バーチャルツアーやデジタルフィルムコミッションなどは、デジタルデータの公開・活用の手法の一つとして考えており、その導入については、財政状況等に鑑み、検討する必要があるため、「検討する」と表記しております。</p>	無

<p>3</p>	<p>文化財は、過去の人々の知恵や芸術、歴史を伝える重要な資源ですが、今後の新しい世代のニーズ、意義について十分に考慮する必要があると思います。例えば、資料編では、ワークショップの結果、見学会のアンケートの結果など、保存して活用できることの利点を中心に記載されています。逆に保存、活用することの否定的な意見は記載されないように思えます。極端に記載すると、その文化財を保存することをあきらめて、その土地を別な目的で活用することが、後世のためになる可能性もあります。このあたりが、保存にかかる費用とその利活用との収益等のバランスで、どこかの時点で判断できるような計画にすべきだと思います。例えば、5年後に年間の維持費と見学等での収益で、維持費のほうが多ければ、その費用を明確にして市民に是非を問うような計画などにしたらどうでしょうか。</p> <p>例えば、澁谷家住宅の保存活用に関して、鎌ヶ谷市はどれくらいの費用と何時間程度の市役所職員の時間を費やしてきたのでしょうか？現状の計画では、年間、いくら程度の費用がかかるのでしょうか？国、県等からの補助と市からの拠出、ボランティアの予想時間は、それぞれどれくらいでしょうか？これらを明確に市民に見える形で公開する必要があるのではないのでしょうか？</p> <p>個人的には、昭和を生きてきた世代としては、その当時の建物などの文化財が適切に保存され後世に伝わることは意味があることだと考えています。しかし、現在、作成した保存案に従い後世で変更できずに多額の費用をかけることが適切かどうかは、十分考慮した上で、後世</p>	<p>本計画は、澁谷家住宅の保存・活用を適切に図るための方針を定めることを目的としたもので、澁谷家住宅を後世に残していくことを前提としております。計画期間を5年間としており、今後の建造物内や敷地内における調査の進展や計画に記載している活用方針に基づき運用していく中で、計画の内容に変更が生じた場合は、その都度見直しを行っていきます。</p> <p>澁谷家住宅の保存・活用に関しては、用地取得などでこれまで要した費用、今後の整備や保存に係る費用などがありますが、必要に応じてお示しできるようにしてまいります。なお、工事や設計の実施に際しては、国からの補助制度を活用しながら、クラウドファンディングなどによる資金の調達についても検討してまいります。</p>	<p>無</p>
----------	---	--	----------

	<p>で適切に判断できる余地を明確に計画しておき、計画が変更できるようにしておくべきだと考えます。</p>		
4	<p>江戸時代建造の建築構造やその時代の農家の敷地構成などの説明を繰り返す単調な見学会だけではリピーターは望めないと想定されます。また、昭和の暮らしの生活感を生かすべきとの意見も理解できますが、昭和を生きてきた年代にすれば特に魅力的なものではないためリピーター確保にはつながらないと思われます。</p> <p>鎌ヶ谷市の財産として魅力ある場所にするためには「また来よう！」と思ってもらえるイベントの開催が重要と考えます。現時点では年2回の想定ですが、体制が整い、月一回程度の開催が見込めるようになったならば、季節に応じた日本伝統の飾り付け（お節句など）や行事の体験、農家や昭和の暮らし体験、食の提供、各種演奏会・庭園を利用した野点など、子供連れの家族層には鎌ヶ谷市の昔を実物スケールで体験できる施設として、また年配層には地域のコミュニティの場や、培われてきた技能の披露・伝承の場として、繰り返し来ていただけるような企画を望みます。魅力ある楽しめるイベントの開催でリピーターを増やすことで、年間を通じて鎌ヶ谷市民の話題にもなり、さらにリピートすることで季節ごとに代わる代わる咲く庭園の花々や屋敷林の自然を楽しめ、建物だけでなく敷地全体を十分に活用できると考えます。</p>	<p>いただいたご意見を参考にリピーターを増やすようなイベントの企画を考えてまいります。</p>	無

5	<p>ゾーン④の畑は、非耕作地として長く置かれていたため雑草が繁茂していると思われます。この土地を耕作して農地とするには大変な労力と時間が必要です。この面積すべてを農作地として収穫体験を目指すには、それ相応の日々の管理が必要であることから、一部をそば畑や菜の花畑として活用を提案します。花が咲く頃に観光スポット（周遊ルートが目玉スポット）になることも期待できます。さらに、ソバの実の収穫の頃に見合わせそば処を開催することで集客が望めると思われます。そば処など火気を使うイベントは火災予防の観点から主屋北側の空き地を利用することを提案します。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、畑で収穫したものの食体験も含めて、畑の活用について検討してまいります。</p>	無
6	<p>来館は公共交通機関のみとの想定ですが、鎌ヶ谷市の北部に位置し、立地的にも難しい場所ではなかろうかと思えます。30名を想定したイベントの開催時に、子連れやお年寄りでは自家用車での来館が便利であるため、北部公民館や畑の一部を駐車場とすることが望ましいのではないかと思います。</p>	<p>北部公民館の駐車場は公民館の利用者の駐車に余裕がない状態であり、畑部分については景観の保護の観点から駐車場は設けないことを想定しているため、近隣での駐車場の確保を検討してまいります。</p>	無
7	<p>澁谷総司資料室（佐津間自治会館）で月2回（10日、20日）見学者を募集し、案内人（ボランティア）が見学者を引率し、説明する。</p> <p>当面の間、それ以外は見学できないように施錠する。（保護のため）</p> <p>その他に、文化・スポーツ課で見学者を募集し、都度案内する。</p>	<p>澁谷総司資料室は佐津間自治会が管理しているため、見学の協力等の連携は想定されますが、主体となって募集してもらうためには、調整すべき事項が多々あるため、将来に向けた検討課題と捉えています。このため当面は、文化・スポーツ課が、見学の募集等をしてまいります。</p>	無

8	<p>主屋の外観全体、裏庭、裏山など車いす等を使用する市民の方も見学できるように、木道など全体の雰囲気を変えない感じで整備してほしいです。多少のガタガタは雰囲気のひとつかなと思います。</p>	<p>周遊のバリアフリー対策について検討してまいります。</p>	無
9	<p>鎌ヶ谷の未来を託す高校生、大学生、20～40歳代など若い世代がボランティアに参加したくなるような募集をお願いします。</p>	<p>ボランティアの募集は様々な世代の方に参加いただけるよう、募集方法の工夫を検討してまいります。</p>	無
10	<p>ドマに椅子等が用意されていると、座って屋根裏を見上げる時、無理せず見ることができるのではないかと思います。それと見学の時休めるのではないかと思います。中学校で使わなくなった椅子はありますか。今も椅子があるとうれしいです。</p>	<p>ドマから見上げる小屋裏の見学は、見やすい工夫を検討してまいります。椅子の設置は、ドマの空間を損なわず、ドマのタタキを傷めないようにしなければいけないため、慎重に検討してまいります。</p>	無